

実際の授業のワンシーン～生活科 発見をかたちにする～

小学校第2学年は、生活科の単元「つながる広がるわたしの生活～“すてき”を伝えたいんジャー～」において、自分たちの住む町の魅力を発見し、発信する活動を行いました。

本事例は、児童が身近な人々、社会と直接関わる活動や体験を重視し、児童が自分の思いや願いを生かし、主体的に活動することができるように配慮するとともに、活動の楽しさや満足感を実感させた取組です。このために、児童の主体性が発揮できるような環境づくりや昨年度の2年生の提案をもとにした「自分たちもやってみよう」という意欲の向上、またコミュニティスクール(以下CS)のメンバーを中心とした地域の方との学習の目的の共有を含めた連携を行いました。

(1) 路線バスで、隣町へ行こう

三次市立図書館は隣町にあります。公共施設の見学として三次市立図書館に行く際、自分たちの住む三次町との違いを意識させました。児童からは、隣町の商店街の建物を見て、「みよし町の本通り商店街は、おしゃれで距離が長いこと」に気づき、再度、町探検に行く意欲を高めていました。

(2) 再度、町探検へGO!

6月に行った町探検。秋には、再度「まちに住む人、働いている人」という視点で行いました。商店街の店主、交番のおまわりさん、お菓子職人など、地域で働く人々へのインタビューを行います。子どもならではの純粋な問いかけに、地域の方は真剣に答えてくれます。町探検を通して、例えば飲食店では、「笑顔が一番大切にされている」ということに気づきました。児童は、1学期の町探検で学んだ自分たちの生活は様々な人や場所が関わっていることを理解したうえで、そこで働く地域の方々の「思い」にも触れていきました。

【各グループに分かれてインタビューを行う様子】



(3) ミニ三次町を作ろう!

教室に戻った子どもたちは、「見つけてきたすてき(工夫・思いや願い・頑張り)をみんなに伝えたい！」と奮起していました。学校内のオープンスペース(コモンズ)に、段ボールや廃材を使って町を再現する「ミニ三次町」建設プロジェクトを立ち上げました。「ミニ三次町」のこだわりは、「見つけてきたすてき(工夫・思いや願い・頑張り)」を伝えることです。そのため、お店のよく見える場所に掲示するなどの工夫をしました。「どうやって、お好み焼きを焼く場面を再現する?」「シャンプー一台はどうやって作る?」「小物は作られたけれど、町になっていないよ。どうする?」「6年生に段ボールで物作りしている人がいるよ。お手伝いをお願いしようよ。」ということで、6年生の協力を依頼しました! 6年生は、図画工作科の「学校へようこそその学習につなげて協力しました。

【試行錯誤しながら作成をしている様子】



【お店の「すてき」を掲示した店舗】



(4) プレオープンをしよう！

子どもたちは、CSの方を招き、「ミニ三次町」がうまく再現できているのかアドバイスをさせていただくことにしました。後日、CSの方から、「よく調べたね。」「美容院ではゆっくりできたよ。」「お好み焼き屋さんの笑顔が素敵。お好み焼きも上手にひっくり返したね。」等、子ども達がこだわっていたことを意見や感想にまとめた便りが届きました。たくさんほめていただき、自信を高めることができました。

【お店を体験していただく様子】



ようこそ！ミニ三次町へ！



ぼくたちが「見つけてきたすてき(工夫・思いや願い・頑張り)は……



(5) ミニ三次町オープンだ！

オープン当日は、1年生だけでなく、取材でお世話になった地域の方を招待しました。

1年生には、ミニ三次町で使える仮想通貨をプレゼントしました。1年生にとっては、算数科の学習をかねてミニ三次町を訪れてもらいました。また、働いている人の「すてき」が分かるように、働いている人の接客の工夫を再現しました。1年生からは、「本物のお店に行ってみたいな！」「交番の警察官の人になっている人が本物みたいでかっこよかったです。」「まねしてみたいです。」という声が聞かれました。低学年の児童たちにとって、地域への誇りと「協働して成し遂げる喜び」を深く刻み込む原体験となりました。

【ミニ三次町を体験する1年生】



【2年生の感想】

たくさんの方が、「本当のお店に行ってみたい。」と言ってくれたことがうれしいな。きっと、すてきが伝わったのだと思う。ミニ三次町をこわすのは悲しいな。みんなで力を合わせてつくった工夫いっぱい町をこわしたくないな！